

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第1回会合議事概要

1. 日 時 : 平成30年3月14日(水) 14:20～16:20
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館4階416会議室
3. 議 事 : (1) コーディネーターの互選
(2) 議員自己紹介
(3) 今後のチーム活動について
(4) 学校教育における男女共同参画に関する取組について
(文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長 中野氏)
(5) WAW! 2017スペシャルセッション「若者が考える女性活躍の未来とは」
(株式会社manma代表 新居氏、POTETO代表 古井氏、G7 Youth Summit (Y7) 2016日本代表団長／G7／G20 Youth Japanメンバー 横野氏、一般社団法人全国学生連携機構理事 喜多氏)
(6) 都道府県の男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組一覧の更新について
(7) 意見交換
4. 出席者 :
(有識者議員)
飯田議員、石井議員、大石議員、大崎議員、大津議員、徳倉議員、林議員、室伏議員

(団体推薦議員)
田丸議員、花岡議員、矢部議員、降旗議員、潮議員、真鍋議員、富澤議員、小栗議員、柿沼議員、赤池議員、海野議員、久保議員、功刀議員、金野議員、鳥澤議員、西立野議員、名取議員、大田議員、山本議員、清塚議員、金子氏(増子議員代理)

(外部有識者・関係府省等)
・文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長 中野 理美氏
・株式会社manma代表 新居 日南恵氏
・POTETO代表 古井 康介氏
・G7 Youth Summit (Y7) 2016日本代表団長／G7／G20 Youth Japanメンバー 横野 薫氏
・一般社団法人全国学生連携機構理事 喜多 恒介氏

(事務局)
武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、
岡田 内閣府男女共同参画局総務課長

5. 議事概要

○冒頭、岡本審議官より挨拶があった。

○議事1について、チームコーディネーターの互選が行われ、徳倉康之議員がコーディネーターに選出された。続いて、徳倉コーディネーターが大崎麻子議員を副コーディネーターに指名され、両者から挨拶があった。

○議事2について、各議員より今後の抱負や各所属団体の取組等を含め自己紹介があった。

○議題3について、資料2に基づき、事務局より、今後概ね2年間のチームにおける活動内容案の説明が行われ、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・具体的な効果の測り方はどうするのか。

- 本チームにおいて、チームの中でどのようなことをやればよいのかを御意見いただき、できることを検討いただきたい。
- 前期のチーム会合において、ライフデザイン事業について議題に取り上げたところ、インターネットで検索すると本事業が引かかるようになり、授業をしてほしいという連絡や、自治体とどう連携すべきかといった相談が来るようになった。チームで取り上げて可視化されることによって、よい効果が表れてくると思う。
- それぞれの団体が有益な事業を行っているが、宣伝や広報が足りず、あまり知られていないのが課題である。本チームにおいて皆様のグッドプラクティスをお伺いして、全国に知らせる方策を考えていきたい。
- アウトカムを評価するのは難しいが、アウトプットはできると思う。しっかりと取組を可視化し、毎年度フォローしていくといずれは効果につながると思うので、データ整理をお願いしたい。

○議題4について、資料3に基づき、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長 中野氏より、学校教育における男女共同参画に関する取組について説明が行われ、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・学生に対するキャリア教育に携わっており、結婚したいし仕事もしたいという女性が増えてきているが、自信がない人が多い。育児と仕事の両立が大変というイメージもまだ強く、男性も育休取得をするというような、様々なパートナーシップのあり方があることがあまり学生に届いていないと思う。文部科学省のキャリア教育ブックレットにも、男性の育休取得のような、男性の様々な働き方についても載っているとよい。
- 当ブックレットは男女ともに対象としたもので、男性の幼稚園教諭の事例や男性の育児休業取得の事例等、男性のロールモデルも掲載している。
- ・教育委員会の男女比はどうなっているか。
- 第4次男女共同参画基本計画において、女性の教育委員がいない教育委員会の数を平成32年までに0にする目標を立てている。現時点（平成27年）では、全自治体のうち、まだ99の教育委員会において、女性の教育委員がいないため、まずはそのような教育委員会数が0になるよう取り組んでいきたい。

- ・男女共同参画に係る教員研修内容を取り扱っている教育委員会について、高等学校の割合が低いのはなぜか。
→まだ分析はできていないが、御指摘を踏まえ、どう働きかけていくべきか検討したい。
- ・平成29年度「教職員を対象とした男女共同参画研修」の定員が30名というのは少ないのではないか。
→研修を受けた方に地元を持ち帰っていただき、広げていただきたいと考えている。
- ・アンコンシャスバイアスがわかれば解決できる問題が多いが、どのように働きかけをしているか。日常の中で、先生のちょっとした気づきにより解消される問題は多い。
→御指摘を踏まえ、教師の意識啓発について、ネットの活用なども含めて等も検討していきたい。

○議題5について、資料4に基づき、株式会社 manma 代表 新居氏、POTETO 代表 古井氏、G7 Youth Summit (Y7) 2016 日本代表団長／G7／G20 Youth Japan メンバー 横野氏、一般社団法人全国学生連携機構理事 喜多氏より、WAW! 2017 スペシャルセッション「若者が考える女性活躍の未来とは」の概要や、その後の活動等について発表があり、質疑応答・意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・本チームの大きな目的の一つが情報収集・共有・発信であるが、発表いただいたものは、見せ方やワーディング、動画の使い方等、若い方へ響くものであるため、そのような新しい感覚を教えていただきながら、本チームで行っていることを一緒に発信していけたらよいと思う。
- ・資料 P.6 に、若者が考える理想の社会として、「性別のステレオタイプのない社会」と記載があるが、その後に「女性には女性らしい『働き方』や『輝き方』があることを、若者に伝えていく必要がある。」と記載があり、ステレオタイプな考え方に戻ってしまっている気がするが、どのような意味合いか。
→起業家や理系女子、遅くまでばりばり働いている人だけが輝く女性、特別な存在に思っている人が多い。その人に合った等身大の個性の活かし方を社会で認めていく環境がないと女性が活躍することはハードルが高いように思われてしまう。男女関係なく、どんな形でも個々人のタレントが発揮され、生き生きとできることがポイントであると考えている。
- ・本チームで取り上げたことを若者に見ていただき、ブラッシュアップしていったら、アクションを起こしていけたらよいと思う。
- ・会社で働いていて問題であると思ったこと等あったら教えてほしい。
→課題を認識してから行動を起こすという二段階があるとしたら、認識の部分に問題があると思う。会社の中だけでは他組織の先進事例をキャッチできない場合が多く、ジェンダーの問題を認識していない人が多い。会社同士でジェンダー問題を共有する場を増やせると、行動につながるのではないかと思う。
- ・事前会合を行ったとのことだが、男女共同参画に関する課題が共有されたのか。
→国際会合自体は90分だけであったため、それだけだとよいアウトプットは出ない。事前に外務省よりSDGsのジェンダーに関する部分をインプットいただくとともに、それぞれが持っている課題意識の共有を行った。
- ・なぜ参加者の男女比を半々にしたのか。
→本会合では、これまで男女共同参画について問題意識を持っておらず、接点を持っていな

かった人を巻き込みたかった。女性の問題だからこそ男性が関わっていくことで大きな変化があると思う。先に質問のあった「女性らしさ」というのに問題意識を持たないのが世の中のマジョリティであると思うので、問題や違和感に気づいてもらうのがまさに次世代への働きかけになる。そのため、男女共同参画に普段から関わっている女子学生だけでなく普段関わらなかった人達を巻き込んでいくため、参加者の男女比のバランスを半々にした。

- ・ジェンダー問題においても、学生の活動に地域格差があると思う。大都市では問題が叫ばれていても、地域に浸透していかないが、どうすべきであると考えているか。
- ・47都道府県で1万人以上の大学生と個別にメンタリングを行った結果、98%の大学生が社会貢献やインターンシップの機会等に自信がなくて応募しない、できないという話があったが、それを変えるための工夫や私たちにできることは何か。
→地方ではそれを問題だと思っている人がほとんどいないのが現状であるが、地方が変わらないとは思っていない。例として、5年前、愛媛県では学生団体活動をしていたのが一人だったが、その人が3年間活動を続け、その後、その後輩4人がその志をつなぎ、現在は100人まで増えた。皆様にもそれぞれが若者に対して、伝えていってほしい。それによって世の中を変えるムーブメントが起こると思う。
- ・意識は小中学校で醸成されると思う。地方においても、大都市とは少し違う形で、回ってお話をしていただきたい。

○議題6について、資料5に基づき、事務局より、都道府県別 男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組一覧について、本チームで更新を行う予定である旨の説明が行われた。

○最後に徳倉コーディネーターより、今後のスケジュールについて、第2回は事務局より改めて連絡すること、また議題としては都道府県の男女共同参画に向けた若年層への働きかけに関する取組一覧の更新版の共有や、都道府県や民間団体等の取組の好事例のヒアリング、若年層からのヒアリング等を行う予定である旨の連絡を行った。

以 上